

【提出様式】 令和7年度 豊島区立学校 学校評価 自己評価表

豊島区立

南長崎

幼稚園

評価対象者数 (人)			
児童・生徒数	保護者数	教職員数	地域の方
	16	6	9

領域	豊島区教育ビジョン 2019 基本方針等	評価番号	評価項目	年間評価																自己評価概要	学校関係者による評価		次年度に向けた改善策			
				児童・生徒				保護者				地域				教職員					学校関係者評価の意見	評語				
				4	3	2	1	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0	4	3					2	1	
I	就学前から小学校・中学校への円滑な接続	I-1	学校は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学校、中学校)と連携を図ろうとしている。						12	3	0	0	1	6	0	0	0	0	3	3	0	0	権名町小学校との交流を盛んに行い、幼少交流を推進した。	地域に積極的に出て、連携が強く皆で育っていくということがわかる。幼小交流の充実保育園との連携も加えていく。	A	栽培、食育、すくわくプログラムなどを通して、保幼小の連携を強化していく。
II	確かな学力の育成	II-1	学校は、発達段階に応じた教育を行い、子どもの学びの意欲の向上に取り組んでいる。	児童・生徒を対象としたアンケート集計表をご参照ください。	15	1	0	0	0	5	0	0	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	幼児期は直接体験が重要であり、遊びを通じた学力の定着については評価できる傾向にある。	子どもの人数が少ないことの利点を活かして保育をしている。保護者、地域との情報共有で活用できている。	A	教員自身が、研修等の充実を図り、保育の向上につなげていきたい。
		II-2	学校は、遊びを通じた総合的な指導を行い子どもの学びの意欲の向上に取り組んでいる。		16	0	0	0	0	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0				
III	豊かな心の育成	III-1	学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動をとおして、互いの良さを尊重し合う温かい学校づくりを推進している。		14	2	0	0	0	5	0	0	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	幼児同士、保護者、教員、地域の方、みんなで幼児の成長を喜ぶことができた。当番活動や飼育栽培を通して、命を大切に育っている。	区民ひろばの利用者”サロンゆい”との関わりは生きる力につながっている。外部との連携も工夫・充実してよい。	A	互いのよさを認め合い、安心感をもって園生活を送れるように常につとめる。当番活動、飼育栽培など引き続きおこない、命を大切に育っていく。
		III-2	学校は、生命を大切にする態度や思いやり、優しい心を育てている。		16	0	0	0	0	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0				
IV	健やかな体の育成	IV-1	学校は、子どもの体力向上や健康の促進に、積極的に取り組んでいる。		15	1	0	0	0	5	1	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	園庭、スポーツ公園での体力向上とともに、園庭で育てた野菜等を食べるといった体験に対し、保護者からの評価が高い。	外部との連携も工夫・充実してよい。	A	スポーツ公園、園庭を活用して、体を動かすことを楽しんでいく。食育もさらに充実させていく。
		IV-2	学校は、充実した食育指導を通して、健康教育に取り組んでいる。		14	2	0	0	3	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0				
V	一人一人を大切に教育の推進	V-1	学校は、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いをつける指導を具体的な場面を通して実践している。		14	2	0	0	0	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	子ども同士の望ましい人間関係を常に意識し、一人一人を理解し寄り添う指導について評価されている。特別支援教育についても園内での対応が評価された。	”ふわふわことば”に共感する。様々な機会が一人一人の学びにつながると思う。	A	いじめの防止、一人一人を理解し寄り添う指導については、今後も大切に教育をおこなっていく。特別支援教育への取組は、地域、保護者、教員内において、説明し共通理解をする機会を作る。
		V-2	学校は、子ども達の気持ちを理解するために、一人一人に寄り添いながら、指導を行っている。		13	3	0	0	0	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0				
		V-3	学校は、特別支援教育や発達障害等に関して、一人一人に適切な指導を行っている。		11	3	0	0	2	4	1	0	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0				
VI	教師力の向上と魅力ある学校づくり	VI-1	教職員は、教育課程に基づく活動を共通理解し、連携を図りながら保育をしている。		15	1	0	0	0	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	保護者、地域の方のご協力のおかげで、園児は落ち着いた生活をしている。	スキップは、学校の授業があるとき、午前中は使用できるので、ぜひ、活用してほしい。(早速、5歳児が体験に伺った)	A	保護者、地域の方との連携を密にし、子どもたちが落ち着き、心豊かな生活ができるようにする。
		VI-2	学校は、保護者や地域の方の意見や要望を受け止め、学校改善に生かしている。	14	2	0	0	0	6	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0					
VII	家庭・地域との連携	VII-1	学校は、学校や子ども達の様子を、学校だよりやホームページ、学校公開等によって、分かりやすく伝えている。	15	1	0	0	0	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	学級便りは定期的に発行できた。HPの掲載については、学年により更新回数に差が出ている。	学級便りはとても工夫されていた。様々な発信の仕方があるので、アナログとデジタルと活用していく。	A	保護者、地域の方からは、子どもの様子を伝えていると評価を得ているが、教職員の中では学級だよりだけでなくHPの掲載も行い、地域の幼児教育の拠点としての役割を果たしたい。	
		VII-2	学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育している。	15	1	0	0	0	6	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0					
VIII	特色ある教育活動	VIII-1	学校は、安全教育への取り組みに関する教育を推進している。	15	0	0	0	1	6	0	0	0	0	4	2	0	0	0	0	0	0	地域の皆様のお力で、様々な教育活動を展開できた。	地域を大切にする幼稚園の意図がよくわかる。	A	地域の方ともしっかりつながり、幼児期の経験を豊かに、地域の幼児教育の拠点を目指していく。	
IX	働き方改革	IX-1	学校は、校務支援システムの活用や「チーム学校」を意識した業務分担等により、組織的に業務の効率化・最適化を目指して取り組んでいる。											5	1	0	0	0	0	0	0	教職員の協力的体制で、効率的に業務を行っている。	園長先生のリードの元、職員の方が協力することが伝わってくる。	A	業務の効率化を常に工夫をしていく。その中でなく、教員の利便性を重視することなく、幼児にとっての幼児教育の質の向上の視点は忘れてはならない。	

※学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の視点で行う。 A 評価は妥当である B 評価はおおむね妥当である C 評価は妥当ではない D 評価方法を見直す必要がある